

報道記者発表資料 朝来市	提出日	令和 7 年 5 月 8 日
	問合せ先	担当部署：
		電話：090-1447-7372
	担当者	代表：深田 佳宏
件名	【日本の伝統文化を体験できる宿】市御堂 4月開業	
◆築120年古民家リノベーション。1日1組限定1棟貸宿 ◆160平米の日本建築で非日常の贅沢を。 ◆家主がセレクトした「日本の手仕事」を体験。 空き家になりつつあった祖父母の実家である築120年の古民家を改修し、日本の伝統文化を感じ、体験することができる宿「市御堂」を開業 1. きっかけ 母の実家であるこの和田山町に、私は小さい頃から里帰りして夏休みや冬休みに帰省していました。いつも優しい祖父が孫の私の来訪を毎回喜んでくれたことを今でも思い出します。しかし、時は経ち、親世代も高齢となり、この家も空き家になりつつあり、売却の話も出ていました。このままでは私の大切な思い出のあるこの家も人の手に渡り、好きだったこの土地とも縁がなくなってしまうと思いました。さらに、外国も含め、旅行が好きな私は、日本の伝統的な建築の美しさを感じていました。外国にも誇れるこの日本の伝統的な家屋を何とか残したい。そんな思いから、私は長年勤めていた教員の職を辞し、家屋の改修のために神戸との二拠点で生活することを決めました。 2. 宿について 〈新と古のコントラスト。〉 かつて私がヨーロッパを旅した時、欧州の人が自国の古い建築様式を非常に大切にしていることに感銘を受けました。ロンドンでは石畳の上を赤い二階建てバスが走り、中心街のオフィスでは流行のスーツを着たビジネスマンが石造りのオフィスで働いていました。一方、日本の都市部では、新建材を使った建売住宅が軒を連ねています。安価で機能性に優れた住宅ではあるものの、日本が数百年培ってきた建築様式は、新築ではほとんど見るのがなくなりました。 当宿では、「和モダン」によりすぎることなく、日本の家屋の伝統的な様式をできるだけ残しました。農家の基本的な形である田の字の間取りや、広い土間とその役割を体験できるようにしてあります。 しかし、伝統的な建築様式の家屋には現代の生活に合わない部分も確かにあります。台所や		

浴室、トイレなどの水を使う設備は全て最新のものに改修しました。特に浴室は、五右衛門風呂の浴槽を使い、特徴的な仕様に仕上げてあります。

〈「日本の美しい日用品」を使って非日常を暮らす。〉

美しいデザインの内装や、デザイナーものの高級家具を使った古民家宿は多くあります。しかし、私の旅先での宿泊経験では、デザインなどは、あまり記憶に残らないと感じていました。それよりも、旅の記憶の多くは「体験」。寒い夜に薪をくべながら暖炉で温まった体験、自分にフィットした寝心地のいい枕を選んで快眠した体験です。ここでは、伝統工芸品である信楽焼の土鍋でご飯を炊いたり、丹波立杭焼などの美しい器を食器として使い、仲間と食卓を囲んだりの体験をしていただけます。これらの伝統工芸品は家主である私が気に入ったものをセレクトしたものです。次に来た時にはまた違う器や日用品があるかもしれないのも、当宿の特徴です。

3. 意義

〈農村地域の活性化、空き家問題〉

今、日本の多くの農村地域は人口減少や、過疎化の問題を抱えています。自動車や高速道路の整備などの交通網が発達し、インターネットの普及で遠隔からでも仕事を行える環境が整ってきたにもかかわらずです。政府は地方創生を掲げ、東京一極集中を軌道修正するために動いていますが、現実には、人口増減率が最も高いのは東京という結果になっています。しかし、日本は各地方ごとに特色のある産業・文化を持った国です。また、農村にはここにしかないよさがあります。その魅力を、観光を切り口として発信し、活性化させていきたいと考えています。

現在、政府は 2030 年までにインバウンド(外国人観光客)の数を年間 3000 万人にすることを目標として掲げています。しかし、まだまだ数値的にはその域に達していない今でさえ、東京や京都、大阪では「オーバーツーリズム」問題が出てきています。必然的に、こうした都市部だけでなく、地方に観光需要を生み出さなければ、この問題は解消されません。私は、外国から見た日本のよさは、美しい自然、里山風景にあると考えています。しかし今はその魅力を十分に発揮、発信できていないのが現状です。丹波・但馬地域を見ても、茅葺などの日本の伝統的な古民家が空き家になり、朽ち果てているのをよく見かけます。残念でなりません。そうしたものの魅力は、仮に新築で再現したとしても二度と帰ってきません。日本の伝統建築の美しさを発信し、多くの観光客の需要を生み出したいと考えています。

〈海外に日本の伝統文化の魅力を伝える〉

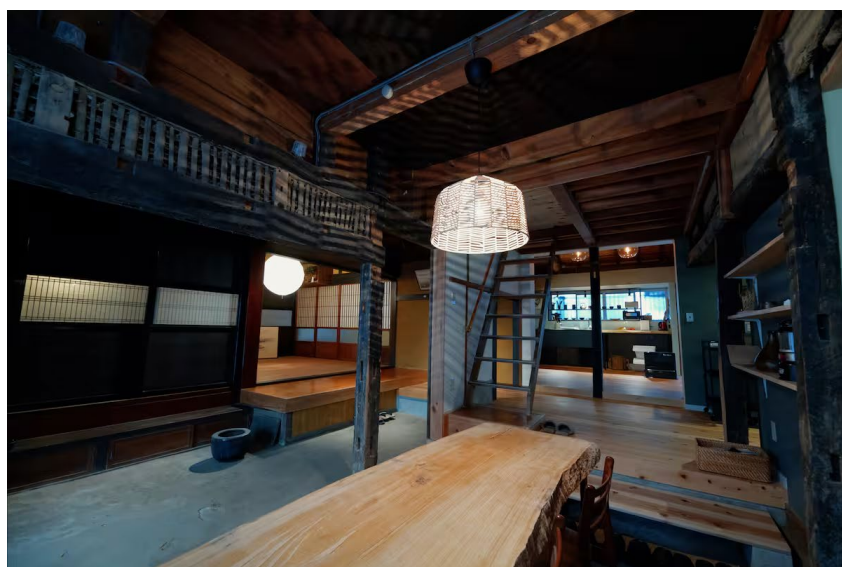
以前から、海外に日本の文化が正確に伝わっていないということと、ほんの一部しか伝わっていないと感じていました。ソーシャルメディアの進歩で多くの情報を海外でも手に入れることができるようになり、外国人観光客も増えてきましたが、それに伴って、ただ注目を集めたいだけの間違った発信も目につくようになり、私個人として大変憂慮しています。日本人はその気候風土と精神性に基づいて、その土地特有の暮らし方や建築様式、日用品を進化させて今の形にしてきました。長い年月をかけて作られたものには美しさがあります。それらの文化を正しく伝えていくことが、長い目でみて日本の観光を持続可能なものにしていく

と私は考えています。

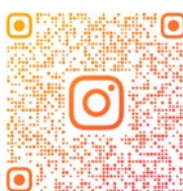
日本の生活様式は、外国人にとってはなじみがなく、不便に感じられることもあるかもしれませんが、それらを通して日本という国を理解し、楽しんでもらえるようにして行くべきだと考えています。

略歴

1979 年兵庫県朝来郡生まれ。広島市私立修道高等学校、神戸大学発達科学部卒。TOTO 株式会社経理部で 3 年間勤務の後、神戸市立小学校教員。体育科器械運動領域に所属し、体育学習の研究を行っていた。昨年度丹波市立青垣中学校英語科教員。宿泊事業立ち上げのため、19 年間勤務した小学校教員を辞め、朝来市と神戸市の二拠点生活を始める。保護者・市民・教員で教育について考える「西宮の教育を考える市民の会」事務局メンバー。



Airbnb



@ICHIMIDO.INN